

2024年7月1日

北陸電力株式会社  
社長 松田 光司 様

さよなら！志賀原発 全国集会 実行委員会  
さようなら原発 1000万人アクション

## 志賀原発の廃炉を求める要請書

本年元日に発生したマグニチュード7.6の能登半島地震は、本震発生後も強い余震が続き、余震域は東西に広がり今なお警戒が必要な状況です。今後、志賀原発近傍とくに原発の前面海域を震源とする地震発生危険性の指摘されています。

志賀原発も被災し、原発敷地での震度は震度5強でしたが複数の損傷や不具合が生じ、敷地にも複数の段差や地割れが生じました。変圧器やタービン等の損傷は、いまだ復旧のめどは立っていません。この地震の最大震度7は原発の真北わずか11kmの地点で測定されています。原発直下で震度7だったらもっと大きな被害が出ていたことは確実で、志賀原発が2011年3月以降ずっと停止していたことは不幸中の幸いというほかありません。

今回の大地震で能登半島周辺は活断層だらけで原発を立地してはならない場所であるという事実が、あらためて誰の目にも明らかになりました。さらに、いったん発表した内容を後に大幅に修正するなど、北陸電力の危機管理能力の欠如が指摘され、原発のような危険な施設を扱う技術的能力があるのか疑問視されています。また、地震発生から二か月以上にわたって国会議員や報道関係者等の敷地内への立ち入りを拒否し続けるという極端な隠蔽体質も明らかになり、地震の被害がまだ隠されているのではないかということも危惧されています。

北陸電力にとって今回の震災の何よりも教訓は、志賀原発の再稼働は断念し廃炉の決断をすることです。しかし「原子力は重要な電源であり、カーボンニュートラル実現のためにも原子力を活用すべき」という北陸電力の姿勢は変わらず、相変わらず原発再稼働に固執し続けています。

私たちは「志賀原発は次の大地震に耐えられない！」そんな危機感と「志賀原発の廃炉こそ脱原発社会への突破口！」との意気込みを共有する全国の仲間と共に『さよなら！志賀原発 全国集会 in 金沢』を、昨日、開催したところです。

集会参加者の脱原発への熱い思いを踏まえて、北陸電力に以下の要請をいたします。

## 要 請 事 項

1. 志賀原発の再稼働を断念し、速やかに廃炉の決断をすること。  
原子力規制委員会による適合性審査が継続中の2号機については、審査の申請を取り下げること。
2. 今回の能登半島地震で、シビアアクシデント対策の深層防護第5層にあたる避難計画の破綻が明らかになった中で、原発の再稼働はあり得ないということを認めること。
3. 志賀原発の施設全体の配管やケーブル類も含む全ての部品で、今回の地震による影響調査を徹底的に行い、結果を公表すること。
4. 敷地およびその近傍にある断層、とくに海域の断層について、今回の地震による影響調査を徹底的に行い、その結果を公表すること。
5. 敷地内で震度7が観測されるような強い地震動に襲われたらどうなるか、とくに短周期帯での地震動に襲われたらどうなるか、さらに地盤の大きな隆起があったらどうなるか、今回の被害を踏まえ解析を実施して、その結果を明らかにすること。
6. 北陸電力による地震の影響調査結果や解析結果について、第三者による調査や検証が可能となるよう、調査結果だけでなく、もとの生データも公表すること。さらに、第三者による敷地内および施設内の調査も認めること。

以上